

国際
講座
2011

日本から世界へ

時空を超えた日本の魅力

我が国は、今、戦後最大の苦難、危機に直面しております。
 そのような中、アジア近隣諸国をはじめ欧米諸国から大きな支援と
 熱い激励に勇気づけられ、あらためて世界とのつながりの大切さを痛感しています。
 今、我々は、新たな復興に向けて大きな変革に挑もうとすることにあたり、
 日本のもつ世界に誇るべき文化・伝統・芸術を明らかにし、
 これからの日本の存在を世界に高めるために、次世代の日本人はどうあるべきか、
 そして、世界の中の日本の価値について皆さんと共に考えたいと思います。

6月11日(土) 「国難から再生へ - 日本の底力は？」



▶ 嶋 信彦
ジャーナリスト

慶應大学経済学部卒業。1967年毎日新聞社入社。経済部、ワシントン特派員を経て1987年フリーとなる。米国ミシガン州フリント市名誉市民。現在テレビ・ラジオレギュラー番組出演の他、白鷗大学経営学部教授、NPO法人「日本ウズベキスタン協会」会長、会計検査院「会計検査懇話会」、国土交通省「独立行政法人評価委員会」、法務省「検察の在り方検討会議」の各委員を務める。『嶋信彦の一筆入魂』『首脳外交-先進国サミットの裏面史』『日本の「世界商品」力』など著書多数。

URL <http://mainichi.jp/select/biz/shima/>
<http://homepage2.nifty.com/silkroad-uzbek/>

7月9日(土) 「土偶：縄文大使」



▶ サイモン・ケイナー
セインズベリー日本藝術研究所 副所長
イースト・アングリア大学日本研究センター 所長

ロンドン生まれ。1984年にケンブリッジ大学で考古学・人類学の学士号を取得。2001年ケンブリッジの博物館で日本縄文時代の火焔土器に関する展示を監修。2004年にケンブリッジ大学で縄文集落に関する考古学で博士号を取得。2009年大英博物館において「土偶」展を監修し好評を博す。2011年英国イースト・アングリア大学日本研究センター所長およびセインズベリー日本藝術研究所副所長に就任。

著書は『土偶の魅力-古代日本の陶製像』他。現在、信濃川・千曲川沿いの歴史的景観の発展を調査する国際プロジェクトを指導。

10月1日(土) 「能の「花」は海外でも咲くか
- アメリカの学生を「種」として」



▶ シェリー・フェノ・クイン
オハイオ州立大学東アジア言語・文学学部教授

1975年コネチカット州ウェスレヤン大学でフランス語・フランス文学の学士号を取得し、1986年インディアナ大学で日本語・日本文学の博士号を取得した。能舞台、日本中世文学と芸術論などを専門とする。1996年からオハイオ州立大学東アジア言語・文学学部教授を務める。

論文『能の翻訳を考える』、著書『世阿弥の思想の展開：能役者の修行における調律』。2010年に早稲田大学の国際シンポジウムで、観世寿夫に関する講演を行なった。また、大槻能楽堂にて学生能『羽衣』のシテ役を務めた。

11月26日(土) 「迷夢と悟道のはざま：
樋口一葉の文学の魅力」



▶ ソンネンベルグ・カタジーナ
ヤギエウォ大学東洋語学研究所 講師

ポーランド ヤギエウォ大学東洋語学研究所日本・中国学科在籍。同大学日本学および英語学科修士課程を修了。2009年～2010年に日本国際交流基金のフェローとしてお茶の水女子大学にて研究を行なう。樋口一葉研究会6月例会及び第34回国際日本文学研究集会にて発表。2011年ヤギエウォ大学文学部の博士課程を修了。ヨーロッパ日本研究協会などの専門組織に所属し、ヤギエウォ大学にて日本語・日本文化の講師を務める。

現在、『樋口一葉日記』を中心に研究し、『自分を失った女たち：樋口一葉の作品における花柳界のヒロイン』、『海外で読まれた一葉：樋口一葉へのアプローチ』などの論文を英語で発表する。

■開催期間：平成23年6月～11月 土曜午後開催
受 付 > 13:30
講師講義 > 14:00～16:00
※講義はすべて日本語で行なわれます

■会 場：学校法人城西大学
東京紀尾井町キャンパスB1Fホール
〒102-0094
東京都千代田区紀尾井町3-26

■参加費：無料

